

福知山市新文化ホール基本計画【案】 概要版

第1章 基本計画策定の背景

1 新文化ホールの整備の必要性について

福知山市厚生会館は、昭和37年の開館以来、多目的に利用されてきました。しかし、社会の変化の中で、より舞台芸術に対応できる施設整備の声が高まっています。

また、老朽化が激しく、改修による機能性や利便性の向上は困難であることから、「文化振興基本方針」、「公共施設マネジメント個別施設計画」では更新(建て替え)の方針で整理しており、「まちづくり構想 福知山」においても、文化振興の担い手となる施設の充実をこれからのまちづくりの課題であるとしています。

2 基本計画策定の経緯

令和4年7月に地域の文化関係者や有識者で構成する「福知山市新文化ホール整備基本構想・基本計画検討委員会」(以下「検討委員会」という。)を設置し、検討委員会で議論を重ねて、令和4年12月に「福知山市新文化ホール基本構想」を策定しました。

その後引き続き、検討委員会において施設の基本理念を実現するために必要な施設の機能や規模、施設構成などについて具体的な議論を重ね、令和5年 月に「福知山市新文化ホール基本計画」を策定します。

3 新文化ホールの基本理念

(1) 基本理念

人をつなぐ、活動をつなぐ、時をつなぐ
～新たな福知山市の魅力を築く文化振興の拠点～

新文化ホールは、福知山市における芸術文化、歴史文化、その他文化的な価値を有するあらゆる「文化」の振興を推進する拠点として、また福知山市の未来を見据え、次世代を担う子どもたちをはじめ市民の夢や希望の実現をめざします。

(2) 基本的な役割

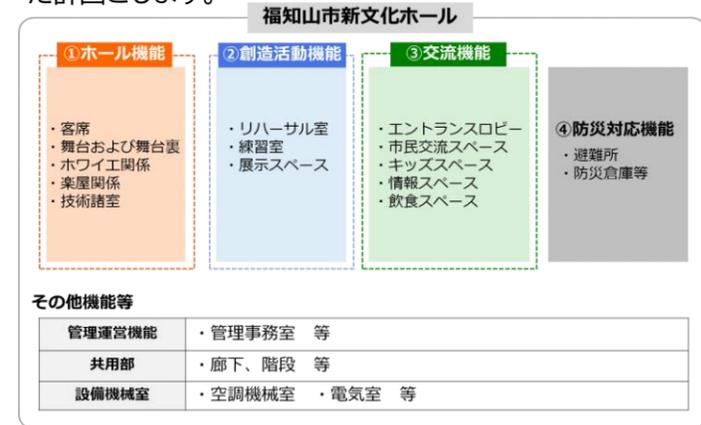
鑑賞・体験	「知る・見る・感じる」機会の充実から新たな活動を「つくり・つなぐ」文化振興の拠点
人材育成	次世代に活動を「つなぐ」文化振興・文化活動の担い手の育成
交流	市民の憩いの場の創出による、出会いや交流の促進
創造	福知山市の地域資源を生かした新たな魅力の創造
安心・安全	「幸せを生きる」安心・安全なまちづくりへの寄与

第2章 施設計画

1 施設機能

福知山市新文化ホールは、以下のような施設機能とします。

なお、施設全体を福知山市ユニバーサルデザイン推進指針や、関係法令などを踏まえて、ユニバーサルデザインに対応した計画とします。



2 ホール機能

(1) ホール形式

・多様な舞台芸術に対応するため、プロセニウム形式とします。

(2) 客席

・段床固定式で600席程度とし、良好な鑑賞環境を確保します。

・車いす席を設置し、高齢者や障害のある人も使いやすくします。

(3) 舞台および舞台裏

・市民の吹奏楽等の発表から、プロの公演まで幅広く対応できる広さを確保します。

・可動式の音響反射板を設置し、優れた音響性能を備えます。

(4) 関連諸室

・車いすや乳幼児連れに対応したトイレの設置など、多様なニーズに配慮した計画とします。

・異なる広さの楽屋を複数の部屋を設けます。

3 創造活動機能

○ 多様な文化活動に対応できるよう、様々な広さの部屋を設け、各諸室スペースの重ね使いに配慮します。

(1) リハーサル室

・ホールの建築的開口幅、舞台奥行きと同程度の幅、奥行きを確保します。

・小規模な発表会や演奏会などにも対応した広さとします。

・音楽や舞踊、演劇などの利用に対応し、防音性能や室内の音響性能にも配慮します。

(2) 練習室

・楽器演奏などに対応するため、防音性能を確保します。

・絵画や華道、工作などの多様な活動への対応も検討します。

(3) 展示スペース

・ロビー、ホワイエ、さらに必要に応じてリハーサル室などを使って展示が行えるよう工夫します。

4 交流機能

○ 誰もが気軽に訪れ、施設に賑わいをもたらす場として、以下の機能を持つスペースを設置します。

○ 施設のコンパクト化のため、各諸室スペースの重ね使いに配慮します。

(1) エントランスロビー

・催事のチラシを設置したり、美術作品の展示などに対応します。

(2) 市民交流スペース

・市民が気軽に訪れ、時間を過ごすことができる環境を整備します。

(3) キッズスペース

・小さな子どもが遊ぶことができ、子育てに関する情報を提供することができるようにします。

(4) 情報スペース

・文化関連図書や市内外の文化情報などを提供・発信できるようにします。

(5) 飲食スペース

・自動販売機やミニキッチンなどが設置可能なスペースを設けます。

5 管理運営機能

(1) 管理事務室

・活動の企画・運営、施設全体の維持管理、諸室貸し出しの管理に対応します。

・市民が施設運営に参加できるスペースを設置します。

6 防災対応機能

(1) 避難所

・周辺地域の市民が一時的な避難に使える避難所を、100年に一度の豪雨により想定される最大浸水深(3~5m、福知山市総合防災ハザードマップ/H18年、※以下100年に一度の浸水深という)を想定し、地上5mよりも高い位置に確保します。

・避難所は創造活動機能の各諸室、交流機能のスペースの重ね使いにより確保します。

(2) 防災倉庫等

・周辺地域の市民の一時的な避難に必要な備品のための倉庫を、100年に一度の浸水深を想定し、地上5mよりも高い位置に確保します。

7 駐車場

○ 駐車台数については、敷地内に確保できる台数に加え、周辺公共施設駐車場の共用、民間時間貸し駐車場の活用等により、駐車場機能を補完します。施設の浸水対策としてホールの主たる機能は2階以上とし、1階を駐車場と、浸水しても早期に復旧できる機能の整備を検討します。

○ 車いす利用者や高齢者等の利用や送迎を想定した区画や動線に配慮します。

8 全体施設規模

全体施設規模は、以下表のとおりとします。

種別	諸室等	想定床面積
ホール機能	客席、舞台および舞台裏、ホワイエ関係、楽屋関係、技術諸室	2,300㎡
創造活動機能	リハーサル室、練習室、展示スペース	500㎡
交流機能	エントランスロビー、市民交流スペース、キッズスペース、情報スペース、飲食スペース	300㎡
管理運営機能	管理事務室	100㎡
防災対応機能	避難所、防災倉庫等	100㎡
小計		3,300㎡
共用部		1,100㎡
設備機械室		600㎡
合計		5,000㎡

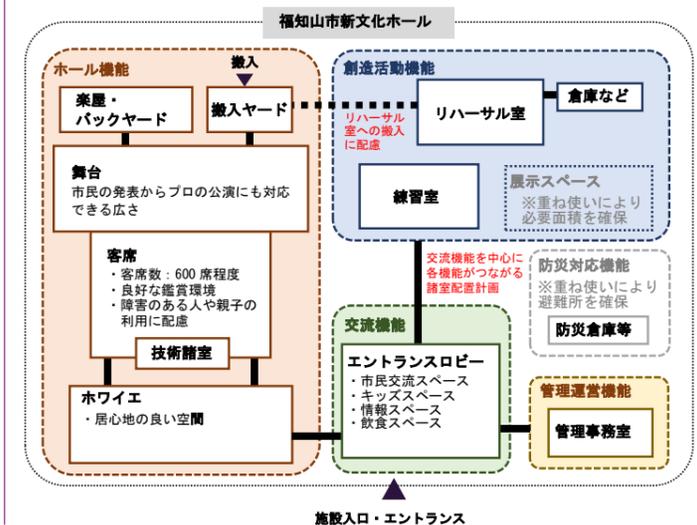
9 その他

・施設全体について、障害のある人、高齢者などあらゆる人に対して利用しやすくなるよう配慮します。

・内装や共用スペースの家具、キッズスペースの遊具などについて積極的に府内産木材を活用します。

・太陽光発電システムなど、自然エネルギーを積極的に活用するとともに、高効率な設備の採用など、施設の整備・運営における環境負荷の低減に努めます。

・以下のように、交流機能やホール機能をはじめとした各機能が一体感をもつ施設構成とし、市民の交流をより促進します。



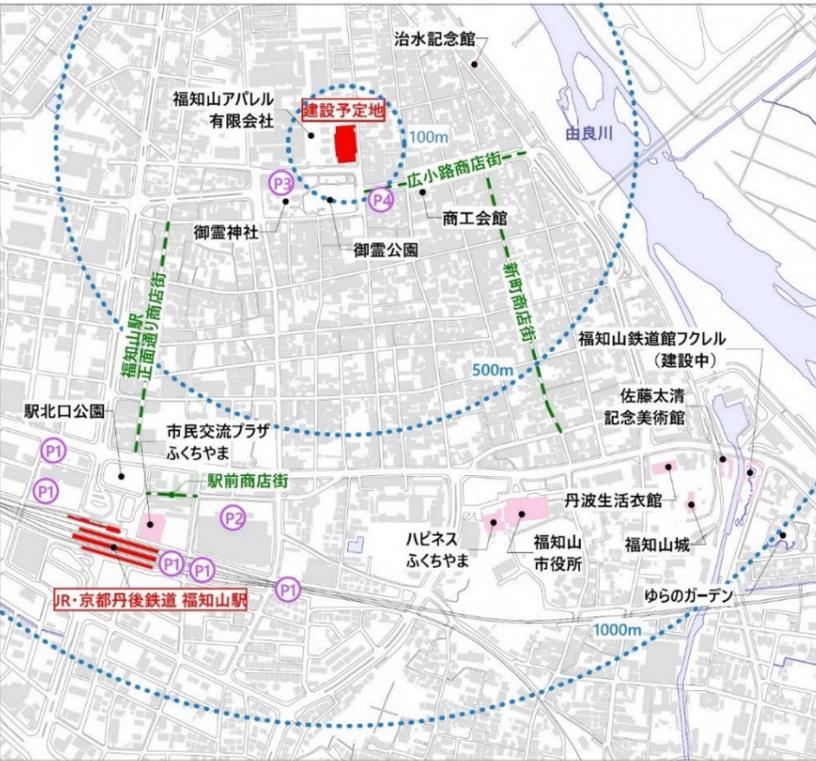
第3章 建設予定地

1 建設予定地の選定の経緯

市街地エリアに立地し、利便性が高く日常的に立ち寄りやすいこと、周辺の公共施設との連携やまちなかの回遊が容易であること、御霊公園に隣接し、歴史的にも文化の中心となってきたエリアであり、これまでの本市におけるまちづくりとの整合性を図ることができるといった検討委員会の意見と、また基本構想策定時のパブリックコメントなどを踏まえ、「厚生会館用地」を建設予定地とします。

2 建設予定地の概要

現厚生会館はJR福知山駅から北へ約1km、近年整備が完了した広小路通りの近く、御霊公園に隣接する中心市街地の一角にあります。福知山駅からは徒歩でアクセス可能なほか、厚生会館前にバス停留所があり、複数のバス路線により市内各所に通じています。



P1 : タイムズ (計250台)	P2 : コーナ (299台)
P3 : 御霊パーキング (215台)	P4 : 広小路パーキング (26台)

※土日のみ、調整によって隣接地である福知山アパレル有限会社の駐車場を利用可能 (100台)

3 施設整備の考え方

(1) 周辺環境

・建設予定地は御霊公園と幅12mの前面道路を挟んで南北に向かい合い、敷地の東側には商店、飲食店や住宅などが並ぶ幅5mの前面道路が接しています。どちらの道路も市民の生活動線として交通量は多く、南側道路は隣地配送センター利用のため大型車両の往来もあります。

(2) 施設整備における留意事項

・御霊公園は日常的な市民の憩いの場であることと、近隣には一般住宅や施設があり、市民の往来の多いことから、建物による日影等の軽減に配慮します。
・周囲の商店街や公園などとのつながりに配慮し、周囲ににぎわいが派生していくよう計画します。
・搬出入する大型車両やバス、来場者の家用車の集中による混雑や騒音、振動などの影響に配慮します。
・地域の防災拠点として機能するとともに、災害にあった後も施設への影響を最小限に抑え、早急に復旧して事業を継続できるよう計画します。

(3) 施設配置計画

・法的な制約から、フライタワーなどの建物の高さが高くなる部分は敷地の南側に配置する必要があります。
・100年に一度の浸水深でも、施設への影響を最小限に抑え、早急に復旧して事業を継続できる階構成とします。

第4章 管理運営に関する考え方

(1) 管理運営の基本的な考え方に基づく事業の方向性

自主事業

1) 芸術文化と市民を「つなぐ」ための多様な鑑賞機会、体験機会の提供

- 鑑賞・体験事業
 - ・市民に芸術的体験を提供する鑑賞、体験事業
 - ・文化振興をめざした活動環境の整備、仕組みづくり
 - ・文化活動をはじめめるきっかけとなるような鑑賞、体験事業

2) 若い世代が中心となって人と人を「つなぐ」懸け橋となるための市民参加の推進

- 市民参加推進事業
 - ・若い世代が活躍し、多世代での市民参加を推進するための取組
 - ・市民参加で企画、制作、実施する事業
 - ・市民参加を実現するために必要となる育成講座やワークショップ事業

3) 過去・現在・未来へと続く「つながり」のきっかけをつくるための、日常的に居心地の良い空間づくり

- 交流促進事業
 - ・日常的な憩いの場を提供するための取組
 - ・文化芸術を通じて世代を問わず人が集まり、交流し、つながりを生む事業

4) 福知山市の豊かな歴史資源と文化資源を「つないで」生まれる独自の文化づくり

- 人材育成・文化創造事業
 - ・市民の力で地域の文化を振興するための人材の育成事業
 - ・作品の創造を通じて市民に芸術的体験を提供する事業
 - ・地域のアーティストや活動団体と地元の子どもたちをつないで、新たな作品や活動づくりを行う事業
 - ・地域資源を生かした福知山ならではの新たな文化の創造事業

5) 文化の力を活かして文化と他分野を「つなぎ」、まちを活性化する連携事業の推進

- にぎわい創出・連携事業
 - ・新文化ホールが中心となってまちぐるみで実施し、まちなぎわい活性化を図る事業
 - ・市内の学校や公共施設等、様々な対象と連携して行う事業

貸館事業

- ・施設を利用者に貸し出す事業
- ・市民が借り手として利用する際は、施設の技術スタッフが制作や技術等のアドバイスをを行い、活動の支援を積極的に行う

(2) 組織・体制

管理運営の基本的な考え方を踏まえ、専門的な人材の配置や、市民に活動のアドバイスをしたり市民の活動をつなぎあわせて新しい活動を育てるためのコーディネーターの配置等を含め、十分な人員体制が求められます。

(3) 管理運営手法

新文化ホールは、福知山市における芸術文化、歴史文化、その他文化的な価値を幅広く文化振興を推進する拠点となるよう整備するものです。そのため、企画運営・維持管理両面で高い専門性を有し、効果的、効率的で安全性が確保できる管理運営手法を検討します。

(4) 管理運営業務

管理運営業務は、それぞれに専門性を求められることから、各業務を異なる主体が担当する事例もあります。各業務の詳細な内容や人員配置については、管理運営業務全体の効率化や利用者へのサービス向上など、様々な観点から検討します。

第5章 概算建設工事費と整備手法の検討

1 概算建設工事費

近年整備された劇場施設の実績から建設工事費単価を計算すると、1㎡当たり90～100万円となります。これに新文化ホールの想定延床面積5,000㎡を乗じると、建設工事費として、約45億～50億円が想定されます。

なお、この建設工事費は、今後の詳細検討や社会経済情勢の変化などにより変動する可能性があります。このほか、設計費や解体工事費、駐車場など外構整備費、備品購入費などが必要となります。

なお、昭和57年10月に文化芸術会館(仮称)等の建設の資金に充てるため設置した文化芸術会館等建設基金の活用、国庫補助金や有利な起債などの財源確保に努めます。

2 施設整備手法の検討

本計画においては、現厚生会館の老朽化や、文化施設の早期整備を求める意見もあることから、比較的事業期間を短くすることができる「直接発注方式」を採用することとし、設計の各段階において確実に方向性を反映できることと、発注までの期間を短く抑えることができることから、「従来方式」を採用することとします。

方式	概要	基本設計	実施設計	建設
従来方式	基本設計、実施設計後に施工者を入札等で決定する	業者選定 基本設計	業者選定 実施設計	業者選定 設計監理 施工
デザインビルド方式(DB方式)	設計・施工を一括で発注する。DB内に基本設計を含む場合と、実施設計から事業者を選定する場合がある。	業者選定 基本設計	業者選定 設計・設計監理・施工	業者選定 実施設計・設計監理・施工

第6章 施設整備スケジュール

基本計画の時点において想定する今後の施設整備スケジュールは以下のとおりです。

